

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：10月29日(水)

会場：布野生涯学習センター

参加者数：37人

◎テーマ①：人口減少社会での地域活性化

【趣旨説明(布野町まちづくり連合会)】

布野町でも少子高齢化、人口減少の波が押し寄せている。年々、30から40名程度人口が少なくなり、今は1,200名程度の人口となった。空き家や休耕田、遊休地が増え、そして、公的施設が統合され、小・中学校の統廃合の問題も出てきている。また、病院や買い物等の交通の便が悪く、高齢者は生活しにくい。山林の維持管理も難しい状況があり、私たちの生活基盤が著しく後退していく。持続可能な地域社会をどう作っていけばいいのか、現状の報告や工夫等があれば、ご意見を出していただきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>地域住民へのアンケートもないまま、統合を進めている。地元の良さや地域資源を生かしていくことが必要である。子どもがいない中で、どのように地域を活性化させるのか。</p>	<p>・説明会ではいろいろな意見をいただいた。布野地区や子どもたちを思う気持ちを受け止めている。布野を大切に思う子どもを育てることは重要であり、地域の文化等を学びながら、ふるさと愛を身につけていく。そのために地域とのつながりを、引き続き、進めていく。これからの社会を見据えて、教育の質を良くし、生きていく力をつけていくことが、学校の目的である。 ・通学については、公共交通も含めて説明した。安全に安心して通学できる環境が必要である。通学用の専用バスも準備していく。具体的な話を今後させていきたい。</p>	
<p>・学校の再配置について、子どもを育てることができない地域になることを懸念している。通学困難地域となり、若者が地域から出ていく。基本的には公共交通を使用して通学することになるが、冬季は雪が降り、バス停に待合場所もない。通学困難となると、保護者は布野地区から出ていくことにつながる。 ・いろいろな情報は第一に保護者に伝えて、次に地域住民に伝えてほしい。 ・放課後児童クラブやクラブ活動の地域展開は、教育に関わることであり、協議を深めながら進めてほしい。 ・子どもが減る前から協議をするべきである。地域が子どもを育て続けられるようにしてほしい。</p>	<p>・保護者のご意見を聞かせていただくことは必要である。学校を通じて、保護者に意見をお願いしている。学校運営協議会にも意見をお願いしていく。様々な機会、保護者や地域の皆さんの声を聞かせていただきたい。 ・今後の地域づくりについて、人口減少していく中で、どの地域も経験をしたことがないことに、これから取り組んでいく必要がある。それぞれの地域の個性や特性を生かした地域づくりを徹底して行っていくことが、今後、魅力ある地域につながる。地域資源の掘り起こしや再発見は、重要である。三次にしさを前面に出して、地域づくりを行うことが、地域活性化の近道である。</p>	
<p>小・中学校を廃校して、どうやって地域を活性化するのか。市道の補修も追いつかず、農業で活性化しようとしてもできない。補助金もハードルが高く、地域でやるには限界がある。</p>	<p>—</p>	
<p>廃校ありきで進めていることは納得がいかない。まずは、市長が来て、説明するべきではないか。多少の借金が増えても、地域の中の学校を守ってほしい。</p>	<p>・教育委員会が計画を立てて、それぞれの地域で説明をし、合意を得たうえで進めている。教育行政は、教育委員会が中心になり、学校のあり方や生きる力を育んだ教育をしていく。市長部局は地域のあり方や地域の活力を維持していく。全体を総括するのは市長ではあるが、役割分担をしている。この機会を通じて、皆さんからご意見をいただきたい。 ・市では、学校を選択できる制度を設けている。今後も、小規模特認校などを設置して、多様な学びができる環境を整備していく。</p>	
<p>地域を愛する子どもをつくることは、実際どうするのか。それが示されていないことが大きな問題である。早急に知らせてほしい。</p>	<p>—</p>	
<p>布野地区における地域活性化の取組を進める所管部署はどこか。布野地区の現状や課題を踏まえて、いろいろな分野を推進していく部署はどこか。</p>	<p>・まずは、担当課が所管する。例えば、農業であれば、農政課が全地域を見ながら、計画や制度設計をする。支所管内においては、支所が本庁と地域の間に入り、いろいろな地域の要望や地域の実態を、うまくつないでいる。 ・地域づくりにおいて、住民自治組織やNPO、企業などいろいろな方を巻き込んで、協力していかなければならない段階である。</p>	
<p>・子どもが減った理由を、住民も考えるべきである。小・中一貫校に行かせていることも理由である。一人ひとりが現実をよく見極めて、10年先のことを考えて議論すべきである。行政が、財政を考えるのは当たり前であり、教育委員会も教育のことを考えている。中学校や保育所など、地域の方と協議を重ねてきたと聞いた。対抗意識を持ち行政を責めるだけではなく、自分たちでどうやっていくのか議論をする必要がある。現実として小学校を維持していくことは無理である。寂しいし、残してほしいが、現実を見極めて、未来を考え、子どもたちを育ててほしい。地域の中で、いろいろな意見を話し合い、要望をまとめて、住民自治組織から市へ要望していくべきである。 ・住民自治組織の役員をする人が少ないと聞くが、担い手を育てなければならない。 ・道の駅について、もう一度考えてほしい。鮎寿司もなくなり、文化の継承もできていない。</p>	<p>それぞれの地域で、自分事としてどのように行動するのか。今後は、行政だけではなく、協働して様々な問題を解決していかなければならない。当たり前にあった学校がなくなることへの不安等は理解している。計画に基づいて説明会を開催している。引き続き、ご理解とご協力をいただきながら進めていく。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月29日(水)

会場:布野生涯学習センター

参加者数:37人

◎テーマ②: 農地を将来も守り続ける取組

【趣旨説明(布野町まちづくり連合会)】

人口減少の中で、休耕田や遊休地が増えており、鳥獣被害も起きている。農地をめぐる現状や課題を共有しながら、今後の農地や自然環境を守っていくために、どのような取組が必要かなど、意見をいただきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
鳥獣被害で困っている。島根県津和野市では、山と農地との間に垣を設置し、被害が減っている。電気柵を設置してイノシシの侵入を防止していたが、シカは柵を乗り越える。柵の設置も負担となっている。行政としての対策はどうか。	<ul style="list-style-type: none">・市では、侵入防止、環境改善、捕獲の3つの柱で有害鳥獣対策の取組をしている。令和6年度の捕獲は過去最高である。それだけ増えているという実態がある。防護柵の設置について、補助金を交付しており、今年度は、額を引き上げている。また、市内各地で研修会や講習会を開催している。県の鳥獣対策であるtegosにも参画しており、フィールドアドバイザーによる現地確認とアドバイスをしていただいているので活用してほしい。・島根県津和野市の取組は参考にさせていただく。鳥獣被害の対策にも、ご理解とご協力をしていただき感謝している。農業や農地、あるいは地域を守る上で、非常に大きなテーマである。引き続き、抜本的に解決できる取組がないか、全国の取組を情報収集していく。	